

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 2 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	師尾 晶子
研究課題	古代ギリシア史・東地中海世界史研究				
研究キーワード	古代ギリシア史、ペルシア戦争、記憶と記録、聖域と記憶、歴史叙述	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	10. 人や国の不平等をなくそう	16. 平和と公正をすべての人に	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>ペルシア戦争の記憶に関する研究について、途切れることなく科研費の助成を受けることができたので、前年度から引き続き、古代地中海世界における文化的記憶に関する研究に取り組んだ。研究の概要については『考古学ジャーナル』に寄稿した。5月に開催された日本西洋史学会における小シンポジウムの成果は、小シンポジウム参加者を中心に論文集として出版することが決まった。主として2025年度の仕事となり、2026年出版予定で編集責任を負う。2023年12月に口頭報告をもとに、アテナイにおけるペルシア戦争の記憶の継承のエージェントとして機能したと考えられるエフェベイア制度に関する論文については外部査読を通してから特集号として掲載になる。2024年3月に終了した経済研究所の共同研究の成果については、2025年3月に予定通り刊行された。今後論文集の出版に向けてメンバーを拡大の上、学内共同研究を続けていく予定である。2025年3月には、ユーラシア大陸における帝国とその射程に関するインスブルック大学を中心とするワークショップに参加し、報告をおこなった。こちらも2025年度末から2026年度にかけて研究をすすめ、国際学会での報告を目指すことになる。それに関する若干の調査を主として科研費を使い、2025年3月にアテネでおこなった。その他、継続して課題に取り組むとともに、新たな研究に取り組んでいる。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等</p> <p>(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)</p> <p>【著書・論文 (査読なし)】</p> <p>師尾晶子「デメテル・カミュネのこと」『地中海学会月報』469: 7 (2024年5月)</p> <p>師尾晶子「古代ギリシアの労働観—声なき労働者の労働観を探る」『国府台経済研究』34巻: 69-91 (2025年3月)</p> <p>【学会発表等】</p> <p>日本西洋史学会第74回大会古代史部会小シンポジウム「ペルシア戦争の受容—古代から現代まで」企画と趣旨説明 (東京外国語大学、2024年5月19日)</p> <p>師尾晶子「アテナイ帝国の統治システム—アケメネス朝からの援用・借用・適用？」2024年度第5回パルテノン科研研究会 (Zoom、2025年1月25日)</p> <p>Akiko Moroo “The Role and Significance of <i>Symbola</i> (Seals) in the Athenian Empire: The Achaemenid Impact on the Athenian Empire Revisited”, Workshop: The Growth of Eurasian Empires and the Imperial Radius of Action: Analyzing Imperial Dynamics – the Radius of Action and the Radius of Impact (University of Tsukuba, Tokyo Campus, 4 March 2025)</p>					

Discussant for Robert Rollinger, “The Achaemenid-Persian army and its maximum outreach. The "Persian Wars" and the problems with our sources”, Workshop: The Growth of Eurasian Empires and the Imperial Radius of Action: Analyzing Imperial Dynamics – the Radius of Action and the Radius of Impact (University of Tsukuba, Tokyo Campus, 4 March 2025)

【寄稿】

師尾晶子「古代ギリシア世界の食文化」1, 2『全医協連ニュース』174: 10-11 (2024年10月), 175: 18-19 (2025年1月)

師尾晶子「大学図書館の使命と未来」*Bibliotheca Somnia* (東洋大学人間科学総合研究所ウェブページ)

師尾晶子「ペルシア戦争の記憶の創造に関する通時的研究」『考古学ジャーナル』803: 37-40 (2024年11月)

【市民講座】

朝日カルチャーセンター千葉教室「古代ギリシアの生と死」(2024年10月30日)

朝日カルチャーセンター千葉教室「パルテノン神殿—その魅力と歴史」(2025年2月10日)

3. 主な経費

- ・学会費の支払い (史学会・歴史学研究会・西洋古典学会・地中海学会・オリエント学会・古代ギリシア文化研究所・西洋史研究会・古代世界研究会、The Society for the Promotion of Hellenic Studies)
- ・研究に関連する書籍 (古代史および古典古代の受容に関する研究書など)
- ・学術誌の購入 (*Hesperia*, *Chiron*)
- ・研究活動を補助するオンラインギリシア語資料 (*TLG*) 利用料、英文校正オンラインサービスなど

4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)

【科学研究費】

- ・基盤研究 C、2024-2027 年度 (代表: 師尾晶子) ペルシア戦争の伝統と「ギリシア人」の創造に関する通時的総合的研究 (24K04305)
- ・基盤研究 A、2023-2026 年度 (代表: 長田年弘、研究分担者) パルテノン彫刻研究—神殿装飾と祭祀における同族神話の構築 (23H00001)
- ・基盤研究 A、2024-2028 年度 (代表: 周藤芳幸、研究分担者) 古代西ユーラシア世界における知のネットワークとそのエージェンシー (24H00099)

【その他の活動】

公益財団法人 史学会 評議員

西洋古典学会 委員

地中海学会 常任委員・編集委員

古代ギリシア文化研究所 役員 (会計)

(本文は2ページ以内にまとめること)